

繪首書

世界都路

北亞墨利加洲

五

特31

592

館新設
六册 一號 一架 三函

六本

特31

592

聖

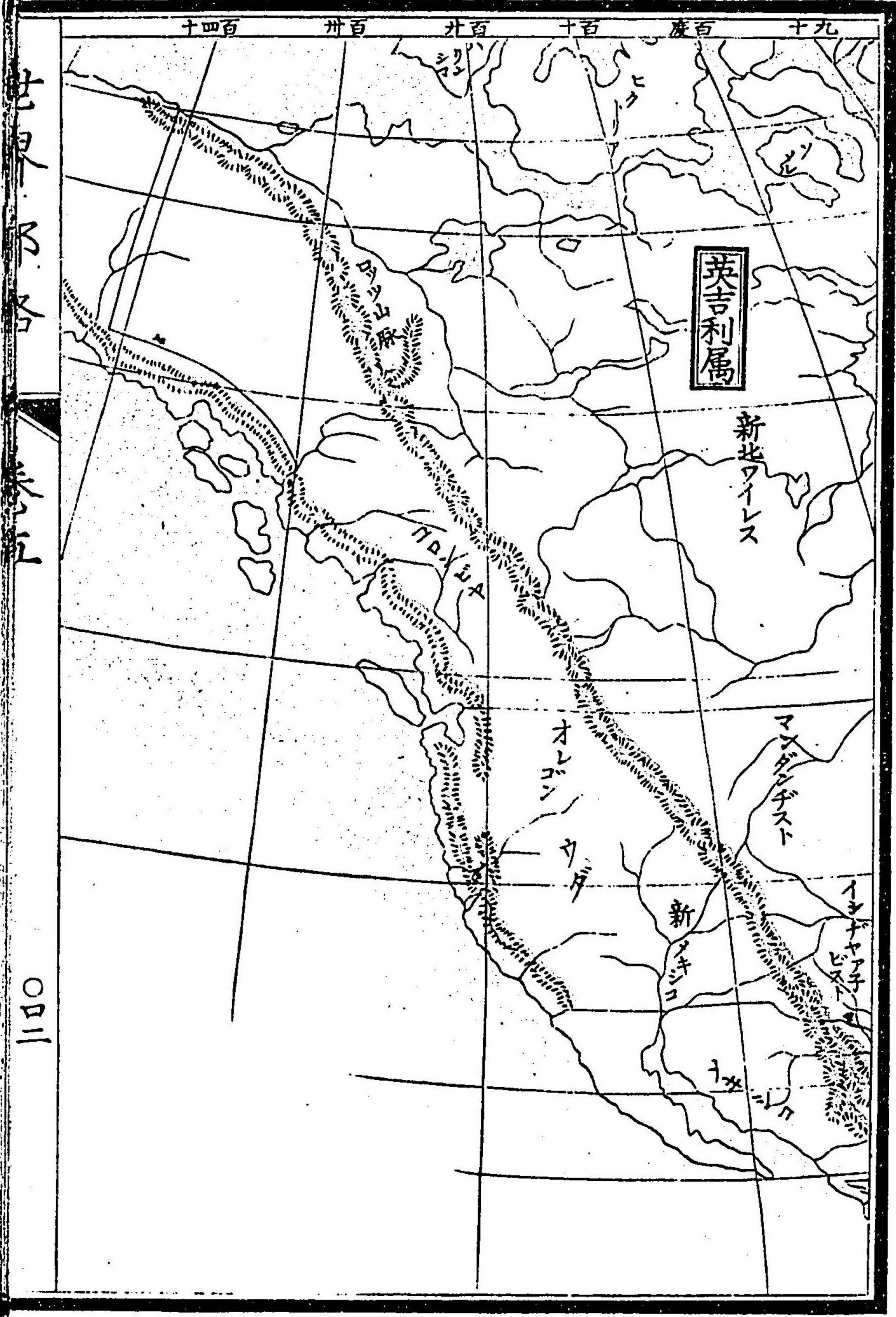
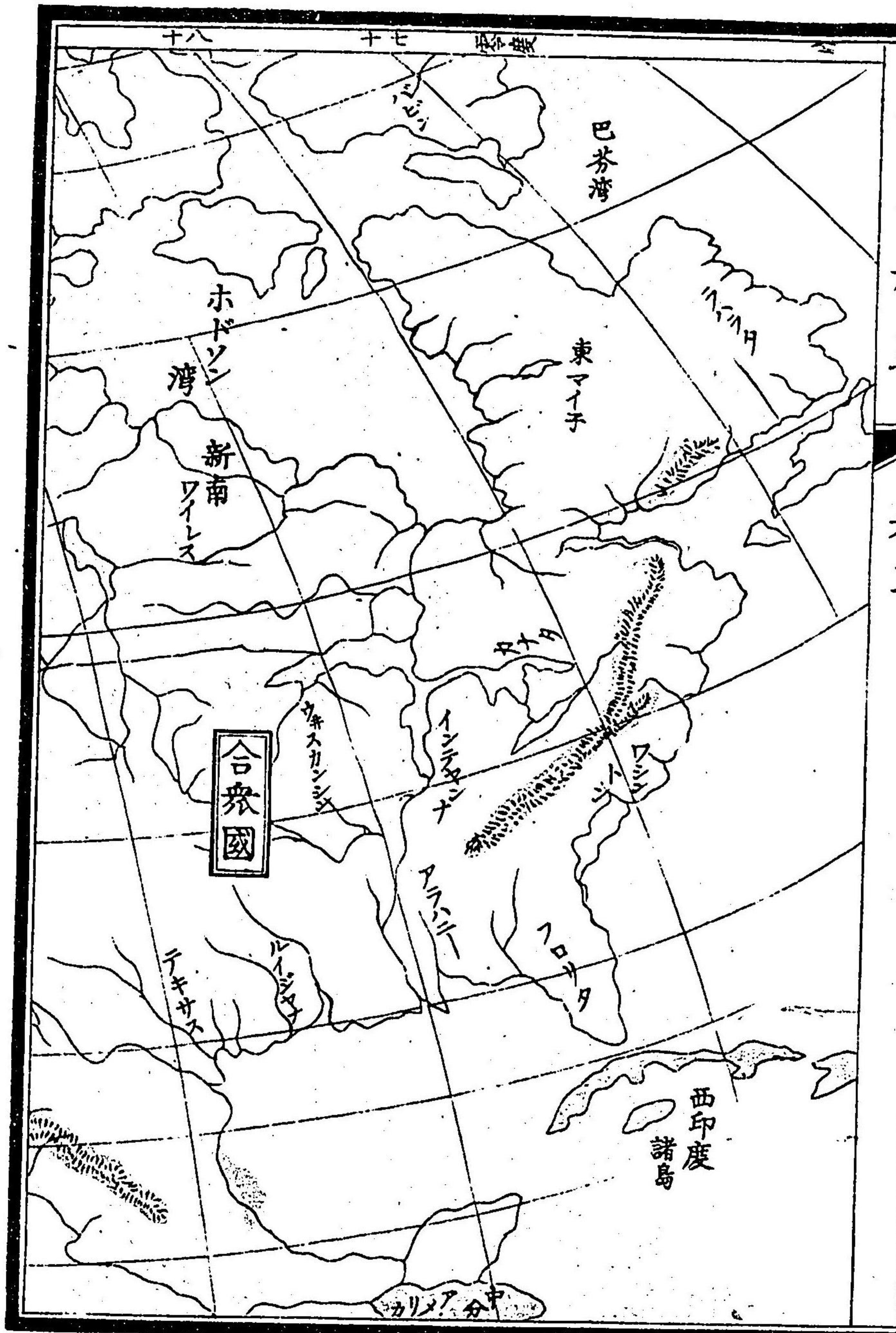
東
宗
國
藏

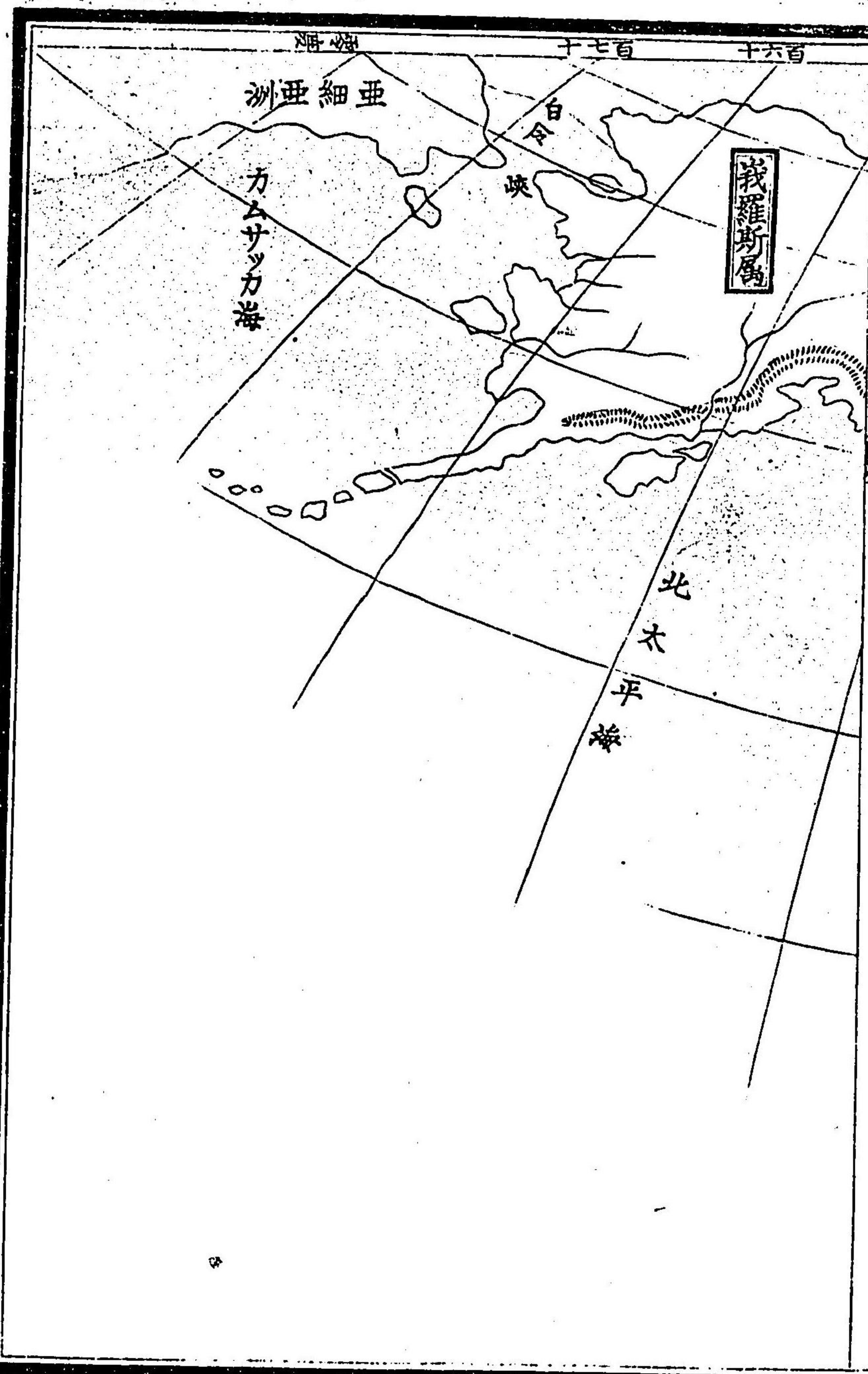
北亞墨利加洲地圖

世界

地圖

011





世界地理

西米利加の事
 細亞非洲加歐羅
 巴の三洲と相連
 地を南北西土小
 分つ東大西洋南
 南氷洋西の大東洋
 小界の初め地球
 の東半面小在者

北亞米利加洲
 往古是亞細亞阿
 非利加歐羅巴也
 洲の北は外小陸
 國ありてありきものと

皆此土有るを知ら
 ざり一が千四百
 九拾年間以太利國
 の科倫布始めて此
 地を檢出し以來西
 班牙船の外葡萄牙
 の船海を航りて地
 を拓き此三國の人
 皆土人と戦ひて各
 その所屬とを次を

思ひめぐらば地の
 形球のごとく
 南東と西
 のそと間土地を
 まくはたあはれど



土利亞人
 人カカ

英吉利佛蘭西荷蘭
 連國瑞國の人々北
 亞米利西至りて得

少くも。少くも。曼曼の
 天文者歎白尾の
 一人。西ふむる
 舟を走せ。意人
 新地を遠く。人

る所の地多くなり英
 国の為の係せらる
 英領此土の富盛と
 と数百年間然る中
 千七百年代米利堅
 花旗國デスライテの民
 英吉利の苛酷年貢
 の取立ゆ苦と終る
 叛きて合衆獨立の
 國とありし

師のち後のち小以のち右
 利り垂あ科こ倫ろん布びんと
 一もの個ま西ぱ班あ牙や王まの
 后きん多たるる以い色さ羅ら刺ら
 姫ひめ小こ助すけ勢せ少せうと
 道どう



亞米利加の土人
 銅色あま其性至つ

も紀きえん子せん四ひ百やく九く十じゅう二に
 年ねん秋あき仲なつ旬じゆん太た小せう
 終しゆう三さん艘さうのの纜じやう解かいき
 了りょう事じ出しゅつ六ろく百ひゃく余よ
 日ひゆゆう時とき

て愚魯なる理を明
 かふ書と讀むの
 必どの絶てある北
 亞米利加之極北境



日本の熊の毛皮
 多て其見出た新
 世界。復そ其物乃
 船是を踏むを彼
 愛するに可也。

ハ寒氣強く年中冬
 小して海辺に在る
 者ハ魚を捕へて食
 こし南の方ハ獸と
 獵を以て生活とし
 其皮を衣とするこ
 と略亞細亞蒙古の
 俗に似たり
 英吉利領の亞米利
 加之北の方氷海に

船將美理格と云
 此大洲をめぐら周
 里。物産地の理風
 俗を詳し記し
 海なるに邦土を

至り南の合衆國の
 界以東の大西洋西
 の大洋海中距り其
 地大半平坦ゆゑ
 溪河錯雜り時候寒
 氣厳く奇らき獸
 類異なり魚類龍蛇
 のかところき者有
 り其民渙獵を以て
 業とを地を六部中

事功少く亞美
 理の海と稱す
 之能されは是よ
 り東西に往來
 環を繞らしむ

分ち其中の居民一
 百七十餘萬あり



地球の地味多
 なる南水二大
 洲北に地勢多
 鱗魚の躍る如
 きありきり殺を

英領六部

○上加拿他いざり

其の貧しき民此地

小来りて荒地と墾

一往々富と致と者

あり此地田畑の土

肥草場多く牛馬と

蓄ふ小宜一首府と

給車克と名く貿易

繁昌一蒸気車の便

己らげ人の力

を著者其形不鬚髯

たわある極地海近

とて東阿非利

如歐羅巴あり

利もあり桑羅核索
河及び伊爾登兩湖
水小浮べる蒸気船
の通ひゆる年々小
賑ひと益せり

加奈田
大滝
余文



神々々西方大洋
距く亞細亞海東
境ひひと知まきる。
小亞米利加諸國
の數おもひくを心

○下加拿他の居民
 大半佛蘭西人の
 洋教を尚と産と
 勤め又英の政事
 中服せざる者多く
 時々旗と揚げ叛く
 中より英人兵力と
 以て之と靖む其府
 と多倫多又京斯敦
 と名多く

如く英佛の再
 一土地も争ひの
 端をみらるるは
 乱走就偏八歳
 の教ひより佛を

○新必烈單の五人
 異人と貿易の地を

○新不倫瑞克の地

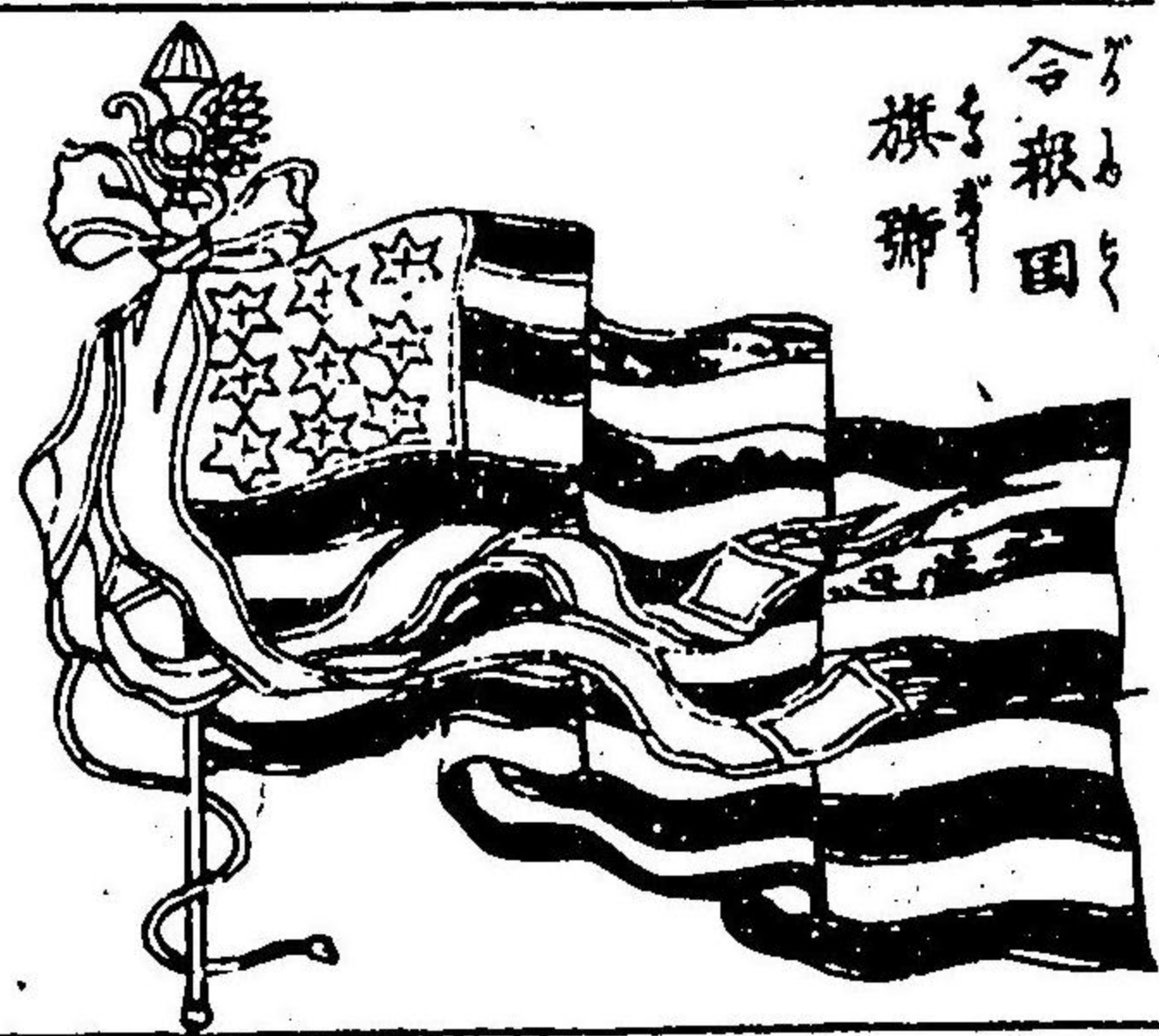


攘ひく英吉利は
 所領蔓延る十三
 部土地を合せ絶
 大に版圖より氏
 の産業を好む

樹を産するところ
最も多し其府を聖
約翰と名け繁昌の
地なり

○新蘇格蘭の銅鐵
炭を産し海中の魚
多し府を赫立法と
名く海濱の港多
け人多し
○新着大島の大西

洋の中を在り其民
魚を捕ゆるを以て
業とし其府を桑若
漢といふ



合衆國
旗

世界地圖

卷五

明多事の由目物也。
膏を絞る運上り。
○その
英本國の政府よ
里中向立り年
少増月り倍益

をどそり
散香ふ苛く酷き
まつるまごむを暴死
風ふん争いぬ。
柳の名ふり種繁る。
心は綿堪思の袋

○合衆國ハ一ノ米
利堅又花旗國トモ
名ク

其船の花紋の旗

と掛くるが故ハ

爾稱せり其旗の

紋其實ハ北米の

形と画きたる

を花形と見ゆ

すし物あり

北亞米利加の大國

あり北米英領の地

南米墨西哥得撒と

界ハ東ハ大西洋海

ハ距り押罷拉既俺

の大山との東と環

り落機の大山其西

と繞り中間教千里

地勢砥平ハ一ノ季

候宜しく其人民本

破るべき兵艦を

己らと也民の自主

自立北理は權也

天の道は也忠助

力り凱歌を也とる

頭領華盛頓四歳

り交代る共和政

協力同意合衆社

國は法律は也

了文民百上法高貴



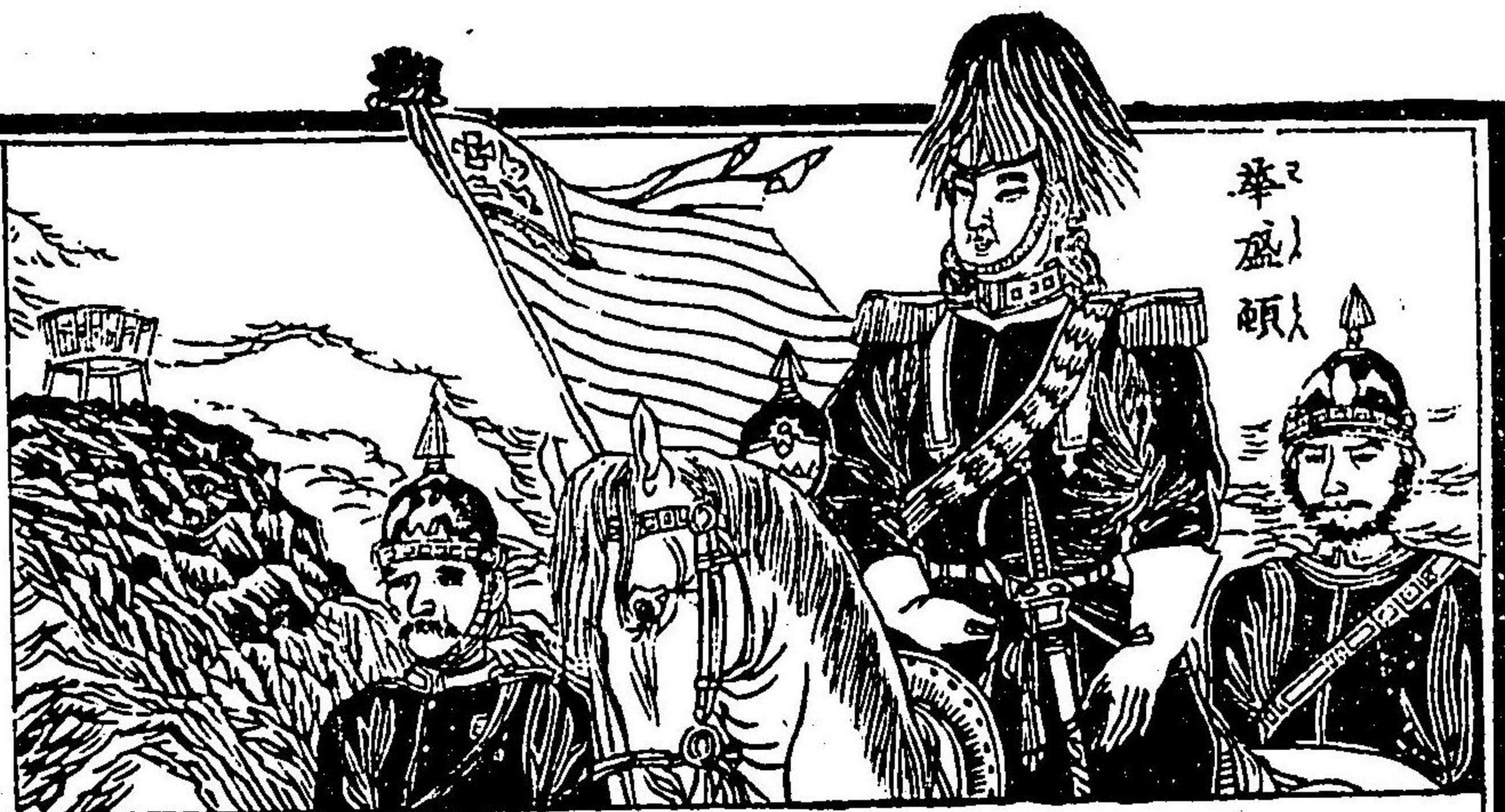
産物五穀山海の
 百貨より満る國
 の富年々知らく
 不領れ好ん三年
 七の中央より

英人の種属及び歐
 羅巴諸國の人種あ
 り其居民二千五百
 萬京城と華盛頓と
 多く城内の民大約
 四萬三千餘人
 此國英吉利小叛
 き獨立して其民
 自由を得國事善
 盡し美を尽し今

建し大都府の名
 え創業は華基
 民の雅舉の賢
 人大頭領は居株
 全海教は

日の繁盛はるかに至いたる
 此皆こゝろ華盛頓ワシントンの成なり
 功いさゆ因よるを
 之これと敬うやむ重おもん
 稱よす一ひと國くに父ちちと
 其その都みやこ府ふと華盛頓ワシントン
 と名なく華盛頓ワシントンの
 米利堅メリケン別部べつぶの人ひと
 あり十じゅう歳さいふし
 父ちちと表あらわす母ははの手て

王おうに申まをす取とり分わけ
 勢せい衆しゆの富とみを以もつて
 新あらた約やくを立たて一ひと部ぶ
 民たみの
 牧まき四よ百ひゃく有ありしを以もつて

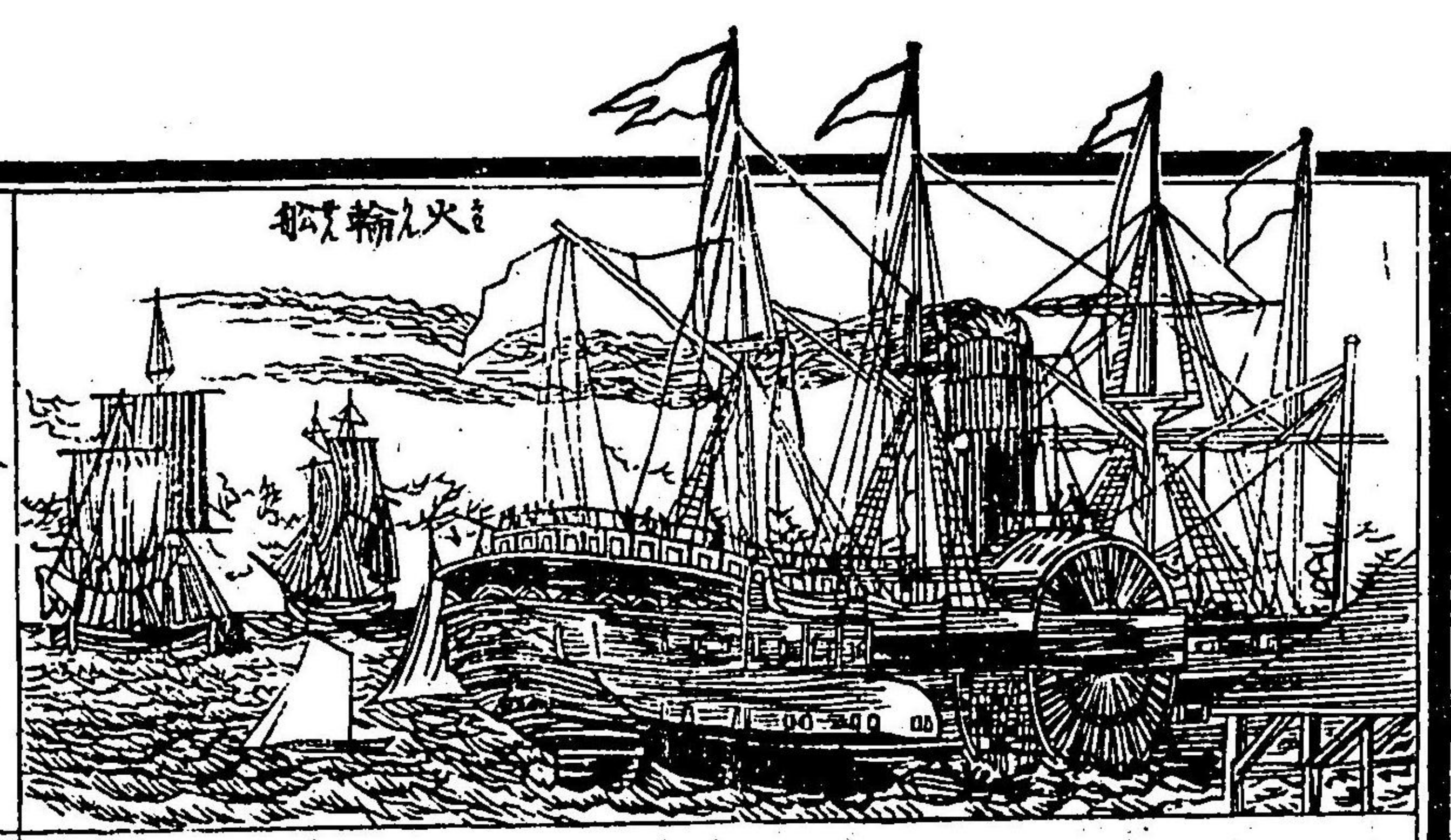


華盛頓

海うみ地ち勢せい頗おほる
 三さん角かく能あたる東南とうなん海うみを
 于おちらぬ
 于おちらぬ底ち底ち吉きち馬ま沙さ法ぽう
 空あか華か滿まん南なん細さい打た尔る

小生長少く一王
 大志あり文武推
 烈人の過と嘗て
 英國の武職も
 時小佛蘭西と兵
 と構へ兵と卒一
 了之小捷其功屢
 々ありとる英將
 其功を奏せむ郷
 人頓を推一了首

の他邊西耳文西北
 を安別衣殺重河
 湖也伊爾黎聖湖を
 距了東小英吉利
 の領地了界去一



大部府の金城も
 物乃名とを家
 稱之は紐約友人合
 衆玉此第一等
 する首府の大港

長とせんと欲も
 頃病に託け謝し
 と家小歸り門と
 社と外小出を是
 小至りて衆民英
 小畔き強し頃と
 推しと大將と
 血戦八年の間
 艱辛をつくし終
 小全勝を得し合

美ありと一り列ぶ
 高船の數る子艘
 萬國は民も富穰
 如少傳え右郷
 成去りて法去地へ

衆政治の獨立國
 とあせり
 通國の居民英人と
 除くの他一は五人
 一は亞非利加人の
 後裔多くは奴と為
 と者あり國內書院
 多く男女貧き富め
 ると論せ世學のハ
 らざる者稀あり又

小あありと一り列ぶ
 大部唐産物百
 貨運送は内地の
 通貨送は内地の
 利益も多し阿

新聞紙の盛んある
 毎日板行する所数
 千張書籍の出板も
 亦少あらむ其獨
 立の初めより國の
 王みく衆多の統領
 プレシター職あり
 民の望み住せ其任
 四年と以て満ち
 と其民耕作と勤

爾巴尼書院學校
 濱武館兵備の備
 局建ちあらしむ
 望みある長崎の上
 り幾多の小府あり。

め諸々の工と精
 く或ハ海中ハ鯨魚
 と捕る者蟻の如く
 群り鯨の油を取り
 と利用ハ供ふハ足
 る民の往來する者
 二行の鐵路を置き
 火輪車を用ひて一
 日ハ數百里を行く
 又火輪船と浮べ

あつるが中ハ小島並
 の不穀鄰の民は
 數大納のるそえく
 二十萬海軍巨大
 の武器庫ふちる

逆浪と決ぎ荷物の
運びと自在に此
外馬車馬船あり馬
船ハ船を牽く纜人
の力を用以馬を
牽せて走らむるお
り民の家々の二層
三層五層もあり至
つと美觀あり家の
前ハ僅か空地を

の兵を推送す。
昔輕母を捧へ奉
り。未嘗の民を
おのづから海へ
澳りし山小嶺世ふ



ある甲斐もあらず
まじりて七國の息
を同く持せし
澤に汗を流し
福尾小近きなり。



昔々空は夢のそ
 むらうましく我まめら
 まはそこの昔陸奥
 山より土まら花と集
 里を替ふ如ふる

留の花木と植て遊
 覽の所とそ
 初め此國自立も
 時十三省と得て後
 小荒地と開墾一拜
 び小佛蘭西大呂米
 の二國より数地と
 買入とて領分と
 其後十八百四十五
 年南部の鄰國墨西

世界より志るまに大
 港右平海の海岸
 あり。あたしぬ方あま
 娘ひの其まひをむ
 らを隣はむら



南小界をくぐる。墨
 西歌領をん金銀の
 土産を小満る國に
 富貨幣を志道
 著くめましと弗

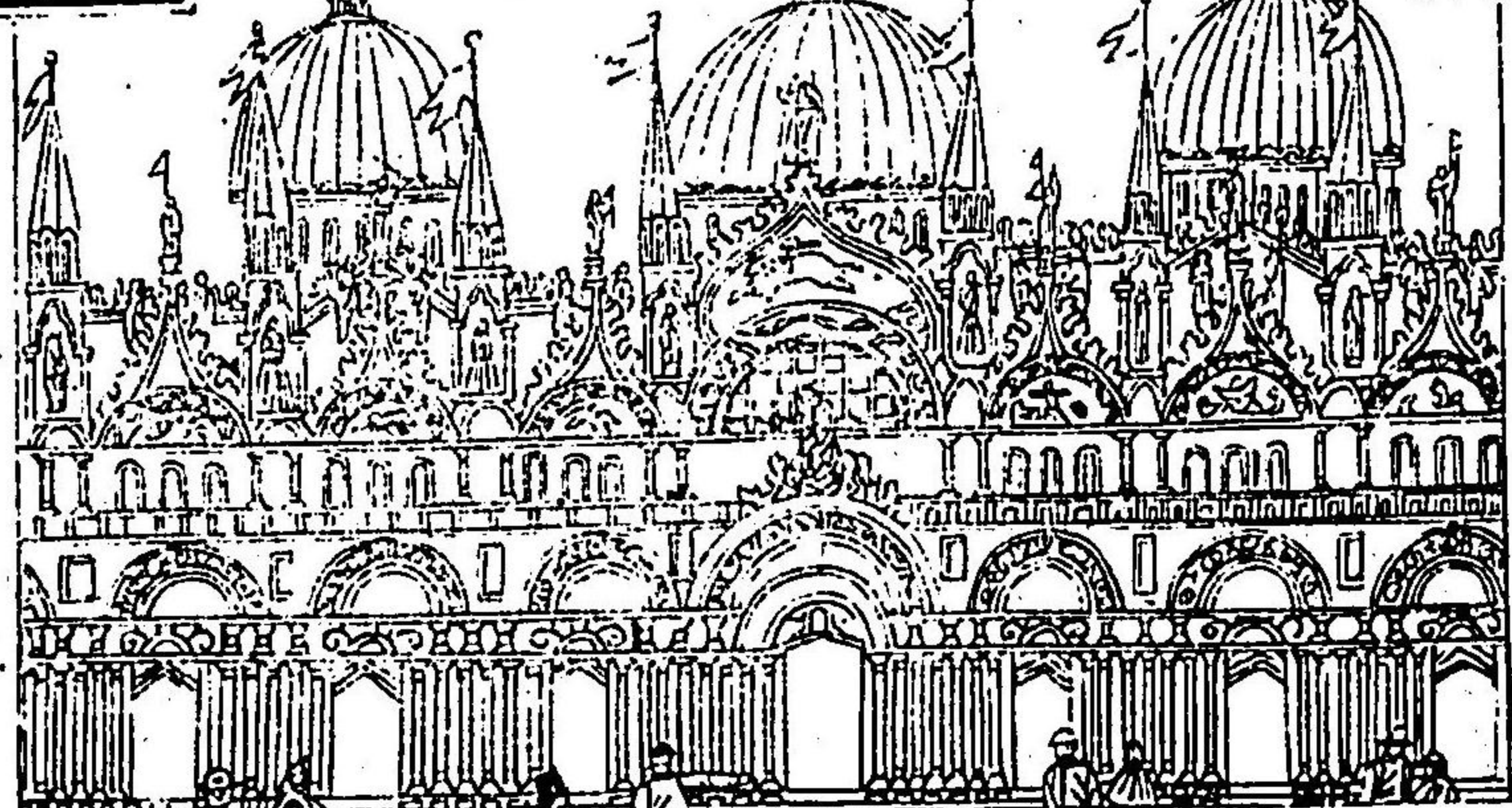
哥と戦争起り之ハ
 捷ちてカリホルニ
 ヤ等の諸州と領地
 小加へ千八百六十
 七年此州の北部ハ
 ある魯西亞領と七
 百万弗を以て購ひ
 得る益々版圖を増
 せり蓋し近年貿易
 盛んハ一國富と

小名をん音。
 墨西歌國を小能
 方合衆をくあひ
 中ああるふ
 續きしる海を申

兵強く更々太平洋
 小蒸気飛脚船と置
 き日本支那等と
 期日と定め相往
 来一加ふるか又新
 小瀾大の鐵道と造
 り直か南の岸よ
 り西の岸に達し專
 り東洋貿易の權と
 掌握の任不當より

問は一大地は此
 出て居るや
 民ん合衆の獨
 立哉常より

議事堂



と謂ふべし

此後より只管
 望む不窮自由
 子反さく十歳
 執しいのみ親し
 漸に務を笑教也

大統領次第

- 華盛頓 千七百八十九年より
- 阿丹士 千七百九十七年より
- 遮費遜 千八百一年より
- 馬費遜 千八百九年より
- 滿羅大 千八百十四年より
- 阿丹士二世 千八百二十五年より
- 查其遜 千八百二十九年より
- 泛標倫 千八百三十七年より
- ホルクリン 千八百四十四年より

歡びに眉をこしら
 十五部
 義都爾北達
 子人を君と宗
 めく新政を建る

○タイロル 千八百四十八年より

○斐譟 千八百五十二年より

世代マリと海軍の大將として

日本に渡来始り

と兩國の和親と

結べり是各國と

交際の初あり

彼千八百五十三

年則ち我嘉永六

律法は個々又
 廢王に從家を
 其れ政治に黨
 を建て全國大
 區二十四年分



法制大聯合衆
王不倣へどん人
乃出く取の浮重
や勢めりあま
の分りしひ發

癸丑年

○ブカナン 千八百五十六年より
○リンコン 千八百六十年より
此代黒人賣奴の
論より南部の十
三州同盟してシ
テフルソンドン
ビスセ大統領中
任トリチモンド
の政府を定め獨

まやまきりし
百能基成る固
可ら以首府大城
の達拉爾叙山を
や海や平踏る

立ちらんと欲も
是に於て南北全
く分と五年の間
海陸の大戦争あ
りて千八百六十
五年四月終り南
部と降伏せしめ
南北一致して花
来の合衆國を歸

了。重く以て連る敢
堂に壯觀あり
民口十二萬四方
の景を人あ

○ジヨンソ 千八百
六十六年より
前の大統領リン
ゴルン任限満る
と雖も人望歸を
るより再び其
職に坐せし南
部の餘黨を殺さ
しむる惜むべし
○グラント 千八百
六十九年より
此人彼南北戦争

勢が山川秀る
樹木好まむ花
以て一倍のあ
業あ家風情あり
市民富るに西

の時總軍の大將
お任ト大功あり
昨年既ハ其任限
満ると並次職投
票の全きを得さ
るを以て再職を
米利堅獨立建國
り今年より八十
年大統領十六代
至る則ち彼千八



七十二年我明治五
壬申年あり

牙能旧弊深く
男女之を綺羅を
飾まざる花の
乗馬其背より綿
繡を中よりお

山外あり閑牛
競馬は樂を
國の力也滅まら
ず此は西の海
人煙おあま

合衆國のかりや。
 小やハ元墨西哥の
 領分ありし千八
 百四十五年の戦争
 より此國の領地ハ
 歸て其地金と産を
 るらと夥しく今支
 那人此地に至つて
 金堀を以て業とを
 る者数万に及り

如補羅可生十字
 架東方の大捕頭
 如古く如
 西人愛しは来
 し今も死に

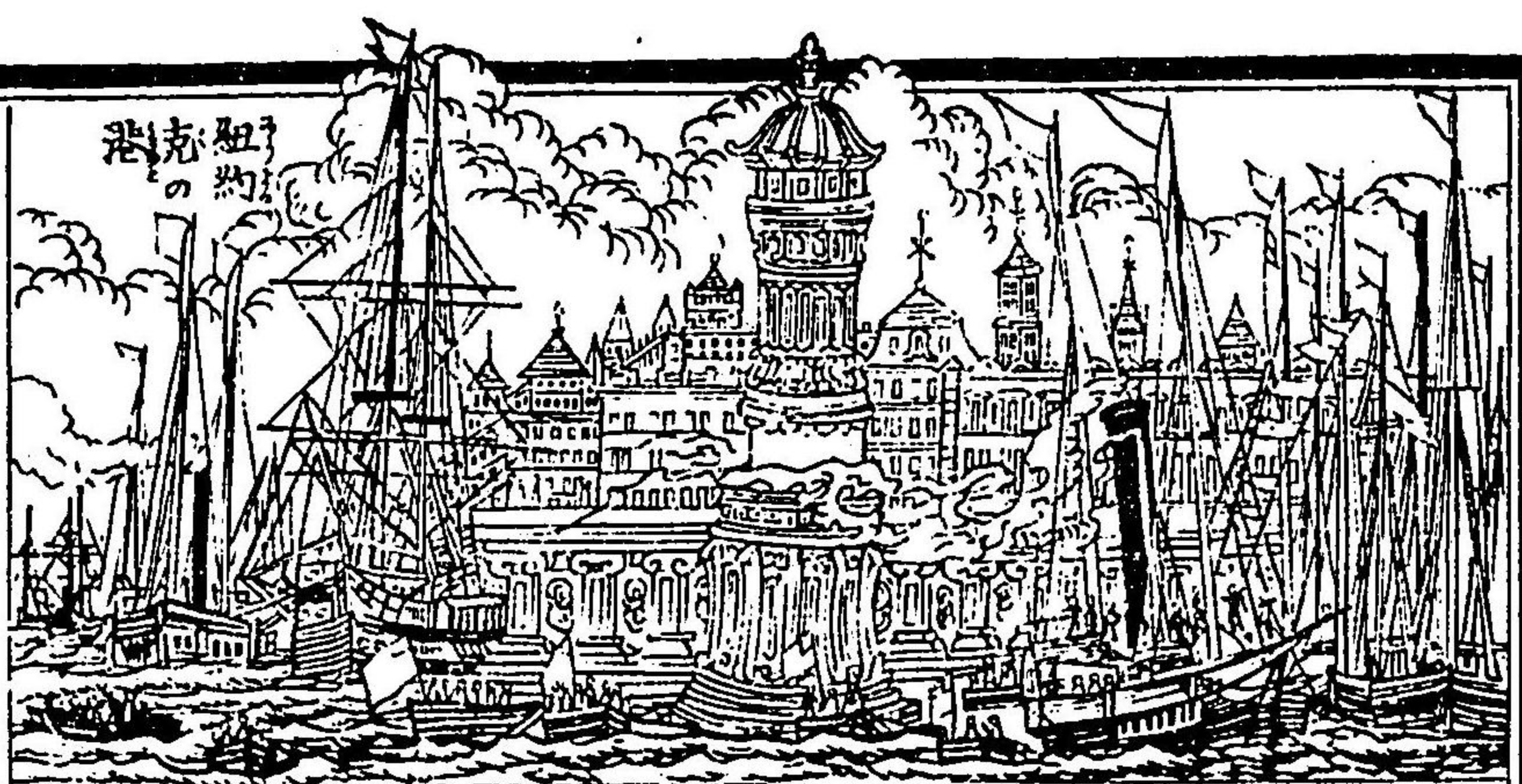


京城華盛頓の國の
 中央あり居民少

或美をなるとも
 列は備は如船
 泊里。南國一姓
 海口や燈の屋
 の著的ま火新目

)と雖も其名高く
 大統領の居城と為
 毎年各省の人來り
 と法制と議と議事
 公堂あり各省俱々
 省城あり城の大い
 る者三あり一と
 北士教と名く通國
 の大都會ふして百
 貨元滿貿易極盛の

的の月入海を本
 小原をく地
 此是地馬拉
 の五箇を地
 勢次第より細



紐約の港

長く安達斯山の
 山脈は通る
 其の路程は東
 西に大なり
 波掛る海

處ありニと紐約商
 務と云ふ其府の大
 ひあること世界第
 三小居るべし三と
 非拉特勒此亞とい
 ふ府内屋室の壯麗
 ありこと列省の比
 まるか一婦女の姿
 容も美しく又類ひ
 あり此三府の地蒸

橋は。於る家の形
 と。多。其。より。魚。人。
 自。主。の。權。を。架。
 運。西。の。其。階。房。
 そ。の。身。を。く。物。多。の。

氣車四ヶ所より出
 入と全國の時候日
 本支那と同トく地
 味宜しく豊満中一
 産物五穀棉花布
 羊毛布烟草塩白糖
 良材錫鐵金銀石炭
 鯨魚油紙ガラス陶
 器等あり又獸畜の
 馬牛羊熊麻狐狸其

五部。ふ。分。り。
 第一の部。府。の。新。
 地。地。を。拉。小。次。く。
 聖。薩。刺。弗。佗。尔。
 の。港。を。盛。る。交。易。



他各種の鳥類あり
又一種の毒蛇あり

○南の海に親を
結ぶ。括弧は
細婦くら中粟
利所の者必は
由自立た勢ひを

尾の響きの蟬の鳴
が如し人此蛇の噬
ずるまは立野小命
終ると云へり
○墨西哥の合衆國
の西南にあり古來
西班牙國の領分
り一が千八百二十
一年西班牙の畔
て自立の國とあり

見よる甲斐あり
坂の御代是くぬ
カル群らして集
と見よる疾風
小女ぬく私こと



多し。運西。海の東南。まめ。の巨。左巴。西。牙。まめ。の巨。左巴。西。牙。

合衆國の制度。小。大。三層。造。り。最。美。男。女。美。服。を。好。み。外。小。出。る。時。ハ。良。馬。小。錦。の。衣。を。飾。り。之。小。

耳。小。瓶。の。ぬ。黒。白。の。氏。の。膏。り。土。肥。く。物。産。多。く。豊。境。人。を。之。部。小。



乗りて游行を其他
二十四部に分つ各
部俱に府城あり首

別つ西に部乃。
其府哈角那の
産物一種量
数に煙香を四
方より集むるに

府の地勢甚だ高く
海面を離るる
七百丈府内美巖壯
観後園の地多く花
木繁り暑を避るの
所あり城外近き所
に大湖数處あり又
高山幾坐あり常に
頂に雪を積む又
大山あり烟り天を

傳りて諸國に
高個率ひて解
ふに其地多
里宛中部のそ
府を三遠馬里



貫く田地肥へて一
年の内小穀物二度

東部のその府を
三的牙額元
の方りもあま
白人多き波
爾多穀水谷中爾

と産を國小金銀多
く毎歳番銀二千数
百万を得る南方の
人衆く北方の少し
産物五穀番銀棉花
青黛香料木料又一
種の蟲あり牙蘭米
と名く人民之を養
ひて食とを約洋蟲
の如し

のぞ
診む牙買か是
英吉利領は一の
山の間を能
橋下。久くなる溪
水耕の道を



○危地馬拉ハ墨西
 哥の東南ハあり地
 形狭く両海の間ハ
 且り東南巴拿馬の

地峽ハ界を此地本
 西班牙ハ屬シ墨西
 哥ハ附シ千八百
 二十四年間自立シ
 國地ハ五穀ハ分
 大府ニあり一ハ
 新危地馬拉ト名ク
 ニハ聖薩刺弗佗爾
 と名ク此他各部俱
 小會城あり地味肥

資財ハ天の奇
 工千人ハ智を
 是ハ地震暴
 風ハ毀シ終
 今棟修理ハ成

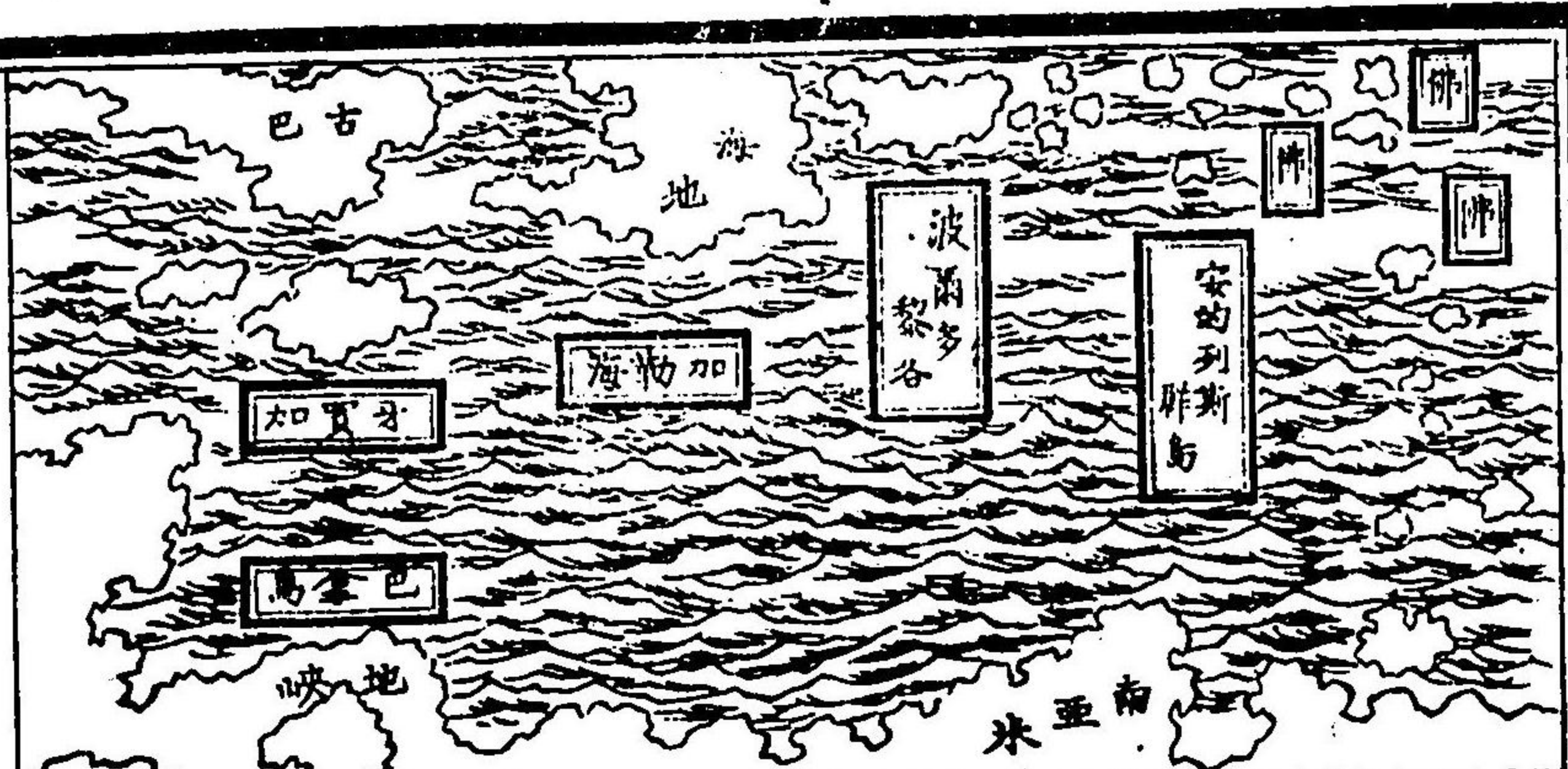
功ハ他府ハ終
 京敦巴突
 西ハ方ハ東
 鳴ハ總稱を安
 的列ハ神

古今事考

卷五

○#

へ穀果豊ふして産物多く金銀珠玉良材薬品牛皮と出さるる
 ○南北両亜米利加の間数多の海島あり
 り総て西印度群島と名く其地半は英吉利の管轄に附き
 其餘は佛蘭西に属す者あり又西班牙



多米尼加多色峨
 鳴都多早星
 佛勒尔
 安地得亞吉
 中

勒黎國
 可爾比亞
 浪
 木
 夫
 眺

世界地圖

卷五

の属島あり島の最
大ひある者と古
巴と云ふ

○古巴嶋の西班牙

の属島内は大府あり

居民十二万五千

餘人あり産物多く

出と

○牙買加の英吉利

の属島あり其地味

島人多し小方巴

哈麻那群島

東百爾慕

他諸島あり大

小凡救百島あり

農功盛んあり

此群島大ひあり

その多くな火山

あり故に地震頻

りゆして毎年秋

冬の間ご暴風吹

き起りて沙石と

飛せし家を破り

人と損を

○東方の島總名と

如きもの産物

能く産する

人種も多し

土りも多し

人英地を去りて



佛多東西小島
馬耳他的尾加路
其他所他廉島
此のほつや
安の列斯比
○あんちるれん

安的列斯群島と云い
ふ北方の者
巴哈麻群島と云ふ
又東の百爾慕他群
島あり大小凡數百
島氣候温たろ
と物産殊に少
○海地島の古巴の
東に在り往古科崙
布新地と尋ねて初

中ふて物産
豊鏡貿易も盛
里花の名所也
秀る名所也
四季の風景

めに此島に抵り名
 けり義斯巴尼約拉
 といふ後西班牙其
 東偏に據り佛郎西
 其西に據る而して
 多く阿非利加の黒
 人を買ひに作させ
 るると年久し黒奴
 凡四十餘万佛人僅
 一萬に餘り然る

山々の奇の地
 一刻千金に出
 入は多めのより
 ありて古巴にむか
 し海地路の佛人



黒奴
佛人
殺す

叛きし獨立の六
 部亦分つ黒人
 酋長土地を占拵
 里都府波爾海比
 小筑亦く今株の

小佛人黒奴と奇く
 役ひて恩寒きゆよ
 り黒人之と怨と
 其本國小内乱あり
 と聞知り黠者ども
 期と約し一時小
 發佛人と塵しゆ
 せしりバ西班牙人
 も之と聞傳へ怖と
 と其地と逃去りぬ

多く護るに
 毛もそあら夷
 地味豊之者此祥
 市程水と耕と業
 下と了と海とを去



このよあらんぶんでん
 中解荷蘭連國
 そそは属為あの此
 波多安安的列斯
 の中ふあま此
 去向ぐを徑し

世界者路

卷五

○世五

此騒動我寛政三年
彼千七百九十一年
の事あり

○荷蘭の屬島安的

列斯の中在る者

七島あり

○暹國の屬嶋同ト

く三嶋あり

○瑞國の屬一小嶋

あり桑巴多羅美ト

世界。西に印度

北に阿也。南に

名づる。北に

散見。北に亞墨利加

海の南。北を分つ

云ふ共々安的列斯
群島の中あり

亞米利加兩洲

横數萬里海灣

群島嶋一挙の

石を基布たる

如く許多あり夫

が中。古。巴。海。地

の。西。の。大。嶋。あり

の。と。其。餘。ハ。皆。大

巴拿馬は地理

了き。鐵路を造

気車の煙を

踏む心地。一瞬

と。死。を。み。あ。と

同小異あり歐羅
 巴人意と極めて
 此嶋々と搜り求
 り其片土を開墾
 の功能必あるから
 ざるべし

沙彼さは彼かれ
 水みづ境まがひは可こ人ひと命いのちはあは
 小こそつ者ものふある

